

第1章 コミュニティ 第5節 国際社会

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費				成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			環境影響	
			会計	投入コスト		活動実績 (H30)		成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題		有益なもの	有害なもの
企画総務課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		S	成果指標の目標値を毎年達成しており、一定の成果が挙げられていると考えている。引き続き目標が達成できるよう、努めていきたい。	H30年度に改善した点		無	無	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	447千円	435千円	①平和祈念式典参加事業 ②平和を語る会 ③平和祈念資料展	市の平和推進事業に理解いただけた人数の割合	戦争の悲惨さと平和の尊さ、命の大切さを市民一人ひとりに理解してもらうことが、当該事業の目的となっているため、当該事業に参加して意義を理解いただけた人数の割合を成果指標とする。	H30年度に改善した点							
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	市内小・中学校での「語る会」開催日前日に、日程及び時間の確認をするため、電話にて連絡を取るようにした。											
	事業の目的及び具体的な内容	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析								
	戦争の悲惨さと平和の尊さ、命の大切さを市民一人ひとりに理解してもらうため、一般公募の市民と平和祈念式典に参加する「平和祈念式典参加事業」や、市内小中学校及び一般市民を対象とした被爆体験者による「平和を語る会」の実施、市役所市民ホール及び各地区のまちづくりセンターにおいて原爆のパネル写真を展示する、「平和祈念資料展」の開催を行う。	0.31人	非常勤特別職				H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合			H30年度目標	H30実績			目標達成済
		2,630千円	臨時職員	0.34人	非常勤特別職	100.0%	100.0%	R元年度目標							
2,849千円		臨時職員	①5名参加 ②16回開催し、1,344名参加 ③来場者数約3,500人	100.0%	100.0%	R元年度目標		100.0%							
期間		S60年度～	2,849千円	臨時職員	①5名参加 ②16回開催し、1,344名参加 ③来場者数約3,500人	100.0%	100.0%	R元年度目標		100.0%					
評価者	企画総務担当 内野 孝雄								事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み						
										被爆・戦争体験者の高齢化が進む中、語り部への身体的負担に配慮した事業展開が必要となる。					
文化芸術振興課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	成果指標の目標値を毎年概ね達成しており、市民の多文化共生意識の醸成の取組のひとつとして、また外国籍市民に日本文化や本市についての理解を深める場として定着しているため。	H30年度に改善した点		無	無	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	200千円	200千円	①参加者数 ②外国籍市民の交流 ③初めて参加した人数	参加者数	在住外国籍市民、外国人観光客等、今後日本に滞在する外国人の増加が見込まれるため、市民と外国籍市民との共生意識の啓発が必要であり、来場者・出演者を含めより多くの方に本事業に携わってもらうことを重視しているため。	H30年度に改善した点							
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	市民どうしの交流をより促進するために、より多くの外国籍市民に参加してもらうことを目標に、イベントのPRカードを作成し、17箇所ほどの事業所・レストランに置かせてもらうなど広報のしかたを工夫するとともに、日本文化を体験できるブースを増設した。											
	事業の目的及び具体的な内容	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析								
	国際交流フォーラム開催支援事業 外国籍市民との共生意識の啓発を目的とする。市内に拠点を置く国際交流ボランティア団体と個人ボランティアが主体となり実行委員会を組織し、年に一度実施している。フォーラムでは①所沢市の姉妹都市紹介②日本人、外国籍市民がグループになって話す「交流会」③舞台での発表(和太鼓・歌・ダンス等)④常設コーナー(姉妹都市と所沢市の子ども達が描いた絵の展示等)を実施し、市民(外国籍市民を含む)間のコミュニケーションの機会を作るとともに、知人作りや国際理解の場を提供している。	0.51人	非常勤特別職				0.00人	H30年度目標			H30実績	目標達成済			
		4,327千円	臨時職員	0.05人	570人	550人	R元年度目標								
0.51人		非常勤特別職	0.00人	570人	600人	R元年度目標		550人							
4,274千円		臨時職員	0.05人	550人	550人	R元年度目標		550人							
期間	平成7年度～	4,274千円	臨時職員	0.05人	550人	550人	R元年度目標		550人						
評価者	文化芸術振興課長 吉田 謙治								事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み						
										「より多くの外国籍市民と日本人が交流し互いに理解を深める場の創出」という目的を達成するために必要となる取組についての検討や効果的な予算の執行や自主財源確保の検討などの点について、実行委員会からの提案を尊重しながら、引き続き支援していく。					
社会教育課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	成果指標の目標値はやや下回っているが、市民団体との協働により30年にわたり実施している本事業は、日本語学習を通して市内在住外国人の生活支援をする場であるとともに、市内在住外国人との相互理解や交流を深める場としても重要な役割を果たしている。また、講習会を開催する団体も本市の国際交流に大きく貢献しており、国際理解に対して成果を上げている。	H30年度に改善した点		無	無	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	240千円	186千円	①開催回数 ②講習会受講生数 ③日本語学習支援ボランティア養成講座受講生数	講習会受講生の人数(人)	多くの市内在住外国人に参加してもらいたいため、受講生の延べ人数を指標とする。	H30年度に改善した点							
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	市内在住外国人が所沢市を知る機会とするため、校外学習の行き先を所沢市内とした。											
	社会教育法	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析								
	外国人のための日本語講習会開設事業 市内在住外国人が生活する上で必要不可欠な日本語の学習の場を保障し、国際化に対応し、市民の国際交流・異文化理解を推進する事を目的とし、毎週月曜日に日本語講習会を市民のボランティアにより実施。また、授業の一環として年1回校外学習を実施。日本語講習会のボランティア(指導者)の確保と技術の向上を目的に、ボランティアを志す方へ向けた入門編と、ボランティアとして活動する方向への実践編の研修を開催。	0.45人	非常勤特別職				0.00人	H30年度目標			H30実績	目標達成済			
		3,818千円	臨時職員	0.00人	900	715	R元年度目標								
0.43人		非常勤特別職	0.00人	900	811	R元年度目標		900							
3,603千円		臨時職員	0.00人	900	900	R元年度目標		900							
期間	平成元年度～	3,603千円	臨時職員	0.00人	900	900	R元年度目標		900						
評価者	社会教育課長 福田 里織								事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み						
										受講者の増加に対応するため、ボランティアの育成が課題であり、日本語学習支援ボランティア養成講座受講生がボランティアとして活動するように各日本語教室と連携を深める。					
文化芸術振興課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	姉妹都市との訪問団の派遣や受入について市と連携して安定的に実施しており、姉妹都市交流における市への貢献度は高い。一方で、より多くの一般市民が交流事業に参加するための取組の強化が求められている。	H30年度に改善した点		無	無	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	1,400千円	1,286千円	①友好委員会事業に参加した市民の数 ②姉妹都市との交流 ③市民の意識を高める事業	友好委員会事業に参加した市民の数	姉妹都市との市民レベルでの交流を通じ、国際的な視野をもった市民を増やすために、より多くの市民に参加を促す必要があるため。	H30年度に改善した点							
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	近年は行政職員の視察団受入が多かった中国・常州市から、一般市民やメディア関係者で構成された訪問団「双城記」を受け入れたことで、市民交流がより深まった。加えて、常州市における本市のPRを行うことができた。また、「日中友好都市陶芸交流訪問団」を常州市に派遣することで、市民レベルでの文化交流を促進することができた。											
	事業の目的及び具体的な内容	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析								
	外国の姉妹都市との交流は、行政主導の交流から民間が主体となった交流へと移っている。この流れを促進し、市民の国際意識を高めるために、海外姉妹都市との交流を主体的に進める民間団体に対して助成をし、その活動を支援する。 ①姉妹都市(米国・ディケイター市、中国・常州市、韓国・安養市)への一般市民訪問団の派遣②姉妹都市から来訪する訪問団との交流③姉妹都市への文化・スポーツ団体等の訪問団に対する支援④外国籍市民との交流	0.36人	非常勤特別職				0.00人	H30年度目標			H30実績	目標達成済			
		3,055千円	臨時職員	0.00人	100人	110人	R元年度目標								
0.41人		非常勤特別職	0.00人	110人	110人	R元年度目標		110人							
3,436千円		臨時職員	0.00人	110人	110人	R元年度目標		110人							
期間	昭和55年度～	3,436千円	臨時職員	0.00人	110人	110人	R元年度目標		110人						
評価者	文化芸術振興課長 吉田 謙治								事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み						
										今後は、より多くの一般市民にも交流事業に参加してもらえるよう内容を工夫した企画、実施が求められるとともに、費用対効果も考慮しながら交付金の効率的執行を促していく必要がある。					

第1章 コミュニティ 第5節 国際社会

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費				成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			環境影響	
			会計	投入コスト		活動実績 (H30)		成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題		有益なもの	有害なもの
文化芸術振興課	実施計画ランク	事業の種類別	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	成果指標の目標値は維持されているものの、ボランティアを活用できる体制の検討を着実に進めるだけでなく、行政資料の多言語化を速やかに促進していくことが求められている。	H30年度に改善した点		無	無	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	2,181千円	1,048千円	①姉妹都市から行政視察団を受け入れた数 ② ③	ボランティア登録者数	市民の共生意識が高まるにつれ、得意な分野でのボランティア登録が増えるため設定した。	H30年度に改善した点							
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	H30年度に改善した点											
	所沢市自治基本条例	2,486千円	879千円	H30年度に改善した点											
	国際交流推進事業	事業の目的及び具体的な内容	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析							
	期間	~	国際交流を推進する様々な事業を実施する事により市民の共生意識を高める。 ①公的文書の翻訳・公的機関での通訳等に協力するボランティアを登録・活用する。②姉妹都市から行政視察団を受け入れ、テーマにあった視察等をアレンジする。また、姉妹都市へ行政視察団を派遣し、先進的な取り組みについて視察を行う。	0.67人		非常勤特別職 0.00人	18人	17人			H30目標値が未達成の理由・分析				
				5,685千円		臨時職員 0.00人	H30年度目標	H30実績			H30目標値が未達成の理由・分析				
				H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	17人	17人	H30目標値が未達成の理由・分析							
				1.13人	非常勤特別職 0.00人	R元年度目標		H30目標値が未達成の理由・分析							
	9,469千円	臨時職員 0.00人	17人		H30目標値が未達成の理由・分析										
評価者	文化芸術振興課長 吉田 謙治	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析							
今後には在住外国籍市民の増加に伴い、これまで以上に具体的な取組が求められることから、ボランティア制度に留まらず、行政資料の多言語化や外国語で案内ができる職員による対応の拡充など、外国籍市民がよりサービスを受けやすい仕組みづくりを進めていく必要がある。		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析							
文化芸術振興課	実施計画ランク	事業の種類別	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	成果指標の目標値を毎年概ね達成している。国際化が進む中で、将来を担う高校生が異文化に触れることで国際感覚を身につけることは重要であるが、経験したことを積極的に周知するとともに、市が推進する国際交流施策においても、将来にわたって協力を期待したい。	H30年度に改善した点		無	無	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	982千円	778千円	①所沢市からの派遣員の総数 ②所沢市における受入家庭の総数 ③	派遣員の帰国後の国際交流事業への参加人数	派遣員に帰国後も、国際交流事業へ参加してもらうことによって、国際交流事業への関心や理解、協力関係を継続していく必要があるため。	H30年度に改善した点							
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	H30年度に改善した点											
	所沢市海外都市学生交流実施要綱 所沢市海外都市学生交流補助金交付要綱	850千円	800千円	H30年度に改善した点											
	海外都市学生交流事業	事業の目的及び具体的な内容	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析							
	期間	平成3年度~	姉妹都市に派遣員(高校生等)を派遣し、社会、文化等の交流を通して、外国人との相互理解を深めていくとともに、将来を担う青少年に広い視野から郷土、国家、国際社会を理解させることにより、次代を築く人材を育成していくことを目的としている。 姉妹都市である米国ディケイター市との間で、派遣と受け入れを毎年交互に行い、派遣員は一般家庭で2週間程度のホームステイを体験し、生活習慣や文化を体験する(平成30年度は受け入れを実施)。	0.52人		非常勤特別職 0.00人	50人	55人			H30目標値が未達成の理由・分析				
				4,412千円		臨時職員 0.02人	H30年度目標	H30実績			H30目標値が未達成の理由・分析				
				H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	63人	66人	H30目標値が未達成の理由・分析							
				0.39人	非常勤特別職 0.00人	R元年度目標		H30目標値が未達成の理由・分析							
	3,268千円	臨時職員 0.02人	77人		H30目標値が未達成の理由・分析										
評価者	文化芸術振興課長 吉田 謙治	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析							
未成年が外国に滞在するという事業の内容に照らし、受入期間中に派遣員が体調を崩すなどの不測の事態に対応するために、英語で対応可能な医療機関を確認しておくことや、派遣員の加入している海外旅行保険の内容について予め確認をしておくなど、事業参加者に対する安心・安全を継続して確保していく必要がある。		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析		H30目標値が未達成の理由・分析							